



学びの丘から No.1

～主体的に考え、深く学び続ける生徒の育成～



令和元年9月12日発行

《 研究主題 》 「主体的に考え、深く学び続ける生徒の育成」（3年次）
～ 思考ツールを活用した対話的学びを通して ～

【 研究の方向性 】

今までとは桁違いの予測不可能な社会に直面していくであろう生徒たちには、予測できない社会の変化に、主体的に向き合い、そして関わり合い、その過程を通して他者との学びの中でよりよい方向性を模索しながら、最適解・納得解を見出していこうとする力の育成が求められると考えます。

令和3年度から全面実施される新学習指導要領の趣旨も踏まえ、次代を生き抜く生徒の資質・能力を育成することが今後の教育に求められると考え、本校では、研究主題を「主体的に考え、深く学び続ける生徒の育成」と設定し、平成29年度から現職教育に取り組んでいます。特に、自分の考えをもたせるための「思考ツール」の活用、考えを広げ深めるための「対話的な学び」を手立ての2本の柱として研究を進めています。今年度は、研究のまとめの3年次にもあたり、郡山市研究推進協力校として、次の2点を踏まえながら今年度の研究を進めているところです。

- ① 教科部会を有効に機能させたり、互見授業を積極的に行ったりするなど、大規模校の強みを生かした取組を展開する。
- ② 多くの教員がチームとしてかわるメンター方式による初任者研修（2名の初任者）や本校開催の中教研研究授業（国語科県大会、数学科二次研）等を現職教育と連動させる。



授業実践 No. 1

2年英語科「Unit3 Career Day」

授業者：鈴木 薫

授業の流れ・手立て

- ① 「Today's Goal」（「something to 動原 を使おう。」）を自己評価シートに記入させた。
- ② 単語から文レベルへ練習し、例題を示しながら型に慣れさせた。
- ③ 6人編成の小集団において、something to 動原 の文をヒントに入れたクイズを「ステップチャート」を使って考えを発表させた。机間指導では生徒の自由な発想に任せ、語彙提供は必要最小限とした。
- ④ 自己評価カードを記入させ、本時の活動を振り返らせた。

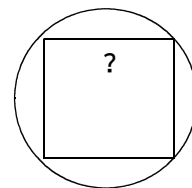
参観者の感想・意見

- 不定詞の使い方や授業の流れがわかるワークシートが思考ツールでの考えの整理に役立っていた。
- ステップチャートの活用により、生徒達が自由な発想でクイズを作ることができた。ステップチャートはシンプルで見やすく思考の整理に役立った。例題の提示も効果的であった。
- 発表は班員全員が参加したが、ヒントが曖昧で反応が滞った場面もあった。教師がヒントを与えてもよかった。また、良いヒントの出し方をした班のものを取り上げ、称讃しつつ改善のヒントとして示し共有化させる方法もあった。



授業の流れ・手立て

- ① 丸太から角材を切り取ろうとしている写真を提示し、最も無駄が少ない切り方を想起させ、最大の正方形の1辺の長さを求めるには、何の値が必要かを考えさせた。(正方形の面積、正方形の対角線の長さ、円の直径など)
- ② 「課題1：直径が20cmの丸太から切り口ができるだけ大きい正方形を切り取るとき、その正方形の1辺は何cmになるだろう。」について、まずは自力解決させ、その後に4人編成グループで話し合わせ、求め方を発表させた。
- ③ 「課題2：丸太から切り口の1辺が20cmの正方形の角材を切り取りたい。直径が何cmの丸太なら取れるだろうか。」について、見方や考え方をグループで交流させた。その際に、条件から論理立てて問題を解決するためのステップ(型)を意識させた。また、ホワイトボードシートに記入させ、求め方を発表させた。
- ④ 最後に類似課題(切り口の1辺が30cmの正方形の角材)を解かせ、本時のまとめをした。



参観者の意見・感想

- 導入でのICTの活用により、課題を身近なものとして捉えることができた。また、様々な考え方ができる課題を提示したことにより、生徒の課題追究意欲を引き出すことができた。
- そろそろ誰かとしゃべりたい、比べたいと思う頃に対話活動が設定されていてタイムリーだと思った。普段から対話に慣れている生徒達だったので、自然に理解の遅い生徒へ説明する姿も見られた。各グループに数学の得意な生徒がいて、グループ内での教え合い・学び合いが自然なカタチで行われていた。
- 本時で学習した見方・考え方が、次の2次方程式や三平方の定理を学習する意図につながる。
- グループでの話し合いの結果や発表を下位生徒にも納得のいくように生かすことの難しさを感じた。



授業で大切にしていること

2名の教員の授業を参観して感じたのは、2名とも豊かな経験を生かした常日頃の授業での学習訓練や学習活動の積み重ねがあり、その延長線上に研究授業が位置付けられていたことです。

日頃の授業で大切にしていることを聞いてみました。

英語科

- ◆ 1年時から、①良い姿勢、②場に応じた声の大きさ、③笑顔、④アイコンタクトに気をつけさせ、間違いを恐れず伝えることや伝えることで人と繋がることをめざし、ペア学習やグループ学習を多く取り入れた言語活動を継続して行っている。
- ◆ 今年度(2年生時)は、上記の授業形態を土台に、「教科書内容の暗唱」(内容を理解し英語らしく言えること)と「文法の理解と活用」を両輪として授業を進めている。

数学科

- ◆ 授業の始めに行う既習事項の確認を重視している。
- ◆ 基礎・基本のドリル学習や発展的な課題解決学習の際にグループ活動を取り入れている。4人編成が基本。
- ◆ 発表の際には順序立てて説明できるようにするなど、「学びの型」を意識させながら学習を進めている。またホワイトボードシートや実物投影機等を活用している。
- ◆ 数学科全体で毎週「週末課題」を提出させている。解答も配付し自己責任で自己採点させる。

2年 English U3 - 3 Class()No()Name()

1 Words & Phrases

1 pizza	2 tea	3 yogurt	4 guitar	5 milk	6 jersey	7 shagi
---------	-------	----------	----------	--------	----------	---------

★上から読み順を確認しよう

something to eat (何か食べ物)	1.3
something to wear (何か着るもの)	6
something to play (何か遊ぶもの)	4.7
something to drink (何か飲み物)	2.5

2 Quiz: What's this?

Example:

① It's something to eat.

② We sometimes eat it at lunch dessert.

③ It tastes sour. A: yogurt

3 Let's make the Quiz: What's this?

④ Greeting: Hello, everyone. We are group ~. ★ Guess what.

④ ① It's something to play. 6

④ ② We sometimes listen to it.

④ ③ It is very high price.

④ Q: What's this?

A: It's ~ A. a drum or piano

今回使用したステップシートを組み込んだ英語科ワークシート